



破傷風

破傷風は、ワクチンで予防できる病気のなかで唯一感染個体(ヒト又は動物)からヒトへの伝播が起こらない疾患で、環境からの病原体暴露を通じてのみ感染し、五類全数把握対象疾患に類型されています。

破傷風の届出患者数は、現行のサーベイランスが開始されて以来、全国で年間 100 例前後、埼玉県では年間 10 例未満の報告数となっています(表 - 1)。

表-1 年別破傷風患者報告数

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004*	2005**	計
全国	66	91	80	106	73	100	73	589
埼玉県	1	4	0	3	6	1	4	19
男	1	3	0	2	3	1	3	13
女	0	1	0	1	3	0	1	6

* 2004年の全国は2005年1月28日現在の暫定値

** 2004年の全国と埼玉県は第1週から第37週までの累積報告数

2005 年は、9 月末日現在 4 件の届出がありました。そのうち 3 件は、同一週(第 34 週 : 8 月 22 日 ~ 28 日)、1 件は、第 37 週(9 月 12 日 ~ 18 日)の報告でした。患者間に地域集積などの関連性は、認められていません。また、「推定される感染源・感染経路等」では、草刈などを含む農作業が多く、創傷部不明の患者も報告されています。

破傷風は、今だ致命率が高い疾患で、予防には能動免疫(予防接種)が非常に有効な疾患です。予防接種には、定期予防接種として百日咳、ジフテリアとの混合ワクチン(DTP 又は DT)が、乳幼児、学童

を対象に使用されており、近年の患者発生は若年層での患者の激減と高齢患者の増加傾向が特徴とされています。埼玉県でも 1999 年以降届出のあった 19 例中 40 歳以上が 18 例(94.7%)と大半を占めています(表 2)。成人においても、土壌との接触等のリスクに応じた予防対策が必要と考えられます。

表-2 推定される感染源・感染経路

報告年	性別	年齢	推定される感染源・感染経路等
1999	男	70歳代	沼地での転倒、頭部挫傷
2000	男	60歳代	土いじり
	女	70歳代	外傷
	男	60歳代	さびた釘
2002	男	60歳代	釘による外傷
	男	70歳代	創部
	女	50歳代	
2003	女	60歳代	外傷性だが部位不明
	男	70歳代	古い木材の棘を刺した後、発病
	男	50歳代	
	女	60歳代	
2004	女	80歳代	農業
	男	70歳代	創部感染
2004	男	50歳代	創傷部より感染
2005	男	70歳代	草刈中に鎌で負傷
	男	30歳代	
	女	70歳代	
2005	男	70歳代	農作業中の擦過傷